

# BOOK Review

## がん化学療法 レジメン管理マニュアル 第4版

評者 池田 龍二 宮崎大学病院教授・薬剤部長



2040年の医療提供体制への展望の中でわが国は、「より質が高く安全で効率的な医療を、国民がどこに住んでいても最適な形で享受できる社会を構築する」ことを掲げた。そのビジョンを実現するため、医師・医療従事者のタスク・シフティング(シェアリング)などの働き方改革や医療DXを活用するとともに、患者参加型のチーム医療や地域医療連携を推進する潮流は一層大きなものになっている。

2023(令和5)年3月28日には、がん対策推進基本計画(第4期)が閣議決定され、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」ことが、わが国の目標となった。患者への適切な医療提供体制を拡充し、「がん生存率の向上」「がん死亡率の減少」「全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上」をめざすことが示されたのである。その際、がん治療(手術療法・放射線療法・化学療法)の柱の一つであるがん化学療法に精通した人材の育成が重要なことは論をまたない。また、薬剤師に引き付けていえば、多様化・複雑化するがん治療において、薬剤師の責務は治療中のレジメンや患者の副作用を適切にマネジメントして、有効で安全な薬物療法を実践していくことである。

本書『がん化学療法レジメン管理マニュアル』は2012年の初版刊行以降、多くの読者の支持を得て改訂を重ね

てきた書籍である。2023年刊行の第4版では、これまでの代表的なレジメンに加え、免疫チェックポイント阻害薬と低分子化合物やがん分子標的薬の併用レジメンも拡充した。章立ては、乳がん、肺がん、大腸がん、胃がん、肝胆膵がん、婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部がん、造血器腫瘍、その他のがんで、刊行時点の最新のエビデンスや診療ガイドラインに基づいて、臨床に必要な111種のレジメンを解説している。

各レジメンの見出しは、レジメンと副作用対策、抗がん薬の処方監査、抗がん薬の調剤、抗がん薬の投与、副作用マネジメント、薬学的ケアから構成されており、いずれも丁寧な解説がうれしい。特に「副作用マネジメント」の項目では、エビデンスとともに、評価と観察のポイント、副作用対策のポイントが具体的に記載されており、これを実践すればがん患者への早期対応、QOL向上や治療の有効性・安全性の確保に寄与できるだろう。また「薬学的ケア」の項目では、症例提示とその解説が充実している。これは臨床能力を高めたい薬剤師には貴重な情報源となり、読者の知識がさらに深まることは間違いない。がん薬物療法の専門や認定資格の取得をめざす若手薬剤師のみならず、彼らを指導する立場で知識をアップデートしておきたい中堅以上の薬剤師にもお薦めの一冊である。

濱 敏弘 監修/青山 剛, 他 編

B6変型/928頁/2023年/定価4,950円(本体4,500円+税10%) / ISBN978-4-260-05028-9 / 医学書院刊